

高田 税務署長賞

税を知るといふこと

上越市立直江津東中学校 三年

佐藤 愛夢

二〇一九年十月一日消費税及び地方消費税の税率が八パーセントから十パーセントに引き上げられた。その時から税金を意識し始めたと思う。初めは何が変わったのか分からなかったが母や兄の反応を見るからに、あまり嬉しいことではないことは伝わった。消費税が十パーセントということは、百均で買えるものが百十円になるといふことだ。ということとは、買い物をするときは税込みを考えて計算しないと会計の際に驚くことになる。税が無ければ安く買えたのに、その分他のものが買えるのに。税が何に使われているか知らない当時の私は税に対して良い印象を持っていなかった。

中学三年の夏休み。まさに今、課題の税に関する作文を書くために税金についてインターネットで調べている。まず、消費税含め税金は何に使われているのかを調べた。私たちが納めた税金は主に社会保障に使われている。社会保障とは、私たちが安心して生活していくために必要な医療、年金、介護、福祉などの公的サービスのことをいう。もっと身近なもので例えると、普段私たちが学校で使っている机やイス、教科書なども税金のおかげだ。それを知った私は自分が払った税金は巡り巡って自分に返ってくるものだと感じた。

そこで私はもし税金がなくなったらどんな社会になるか考えてみた。一つ目は勉強を教えてくれる人がいなくなる。教室の窓ガラスが割れたり、雨漏りしたりしても修理できない。教科書代や授業料を自分で負担するため、家計の負担が増える。学生の私が今、学校で学ぶことができる環境にいること、その環境をつくっているのは日本のみんなだ。二つ目はゴミ収集車が来ないためゴミが街にあふれ不衛生になる。道路や橋が壊れても修理できないこと。そして、犯罪の取り締まりが行われず、治安が乱れる。安心安全に過ごせている生活を支え、つくっているのも税金である。最後に、税金がなければ火事や急病になっても消防車や救急車が来ない。それがどんなに辛いことか想像することしかできないが、救急車や消防車が来てくれることを当たり前だと思っはいけないと私は思う。まだまだ税金のおかげで成り立っているもの、助けられているものは数多くある。

税の学びを通して私は税に対しての価値観が変わった。学ぶ前は嫌だなと思っていたが、学ぶたびに税金があるからこの豊かな生活を送ることができていることのある人がたみを感じた。そして税金を詳しく知らない人、知ろうとしない人が税金を批判しないで欲しい。税を学べば今の生活の見方が変わり暮らしが豊かになると思う。自分が納めた税で国を支え誰かを助けている。逆に誰かが納めた税で自分が助かっている。直接的でなくても間接的に日本の全体が税金で助け合っている。税を学び、税を納め日本の未来を明るくしていきたい。税を学ぶ機会をくれてありがとう。